



やがて訪れる春に備えて

二十四節気(にじゅうしせっき)の第24「大寒」を迎えていますが、今年は雪が降らず、あかね川の水面に氷が張る気配もありません。児童玄関前に積み上げた雪山で遊ぶ子どもたちの姿を見ないまま、暦の上では「節分」「立春」と確実に春に向かおうとしています。

毎朝、子どもたちは寒風の中を登校していますが、発熱、腹痛といった症状による欠席が増加し、登校しても体の不調を訴える子どもが少しずつずつが増えていきます。「かぜは万病のもと」ともいわれ、また、インフルエンザは、最も警戒しなくてはならない感染症の一つでもあります。小さな子どもや高齢の方を中心に命をなくすことがあり、決してあなどれない重い病気です。誤った知識や不確かな情報に惑わされずに、正しい知識と適切な予防が求められます。



学校でも、健康観察や教室の換気、うがいや手洗いの励行、マスクの着用など予防に努めていますが、ご家庭でも「食事」「栄養」「休養」「睡眠」等も合わせ、予防と治療、健康管理に十分お気をつけください。

さて、3学期も余すところあとわずかとなりました。やがて訪れる春に向けて茜が丘の草や木々も着実に準備を進めています。タンポポは冬枯れすることなく、葉を「ロゼット」と呼ばれる形にして、できるだけ背を低くし、葉を平たく広げることによって冬の寒さから身を守りつつ、暖かくなったらすぐに芽を伸ばそうとしています。モクレンは温かくふわふわした毛で新芽をくるみ、ツボミの先端をいっせいに北に向けようとしています。梅は「冬芽」を膨らませていよいよ春を開こうとしています。

学校では卒業・進級に向けて、子どもたちが学年のまとめを行うなど、次のステップへ進むための大切な時期を迎えています。それぞれの学年に応じて、読む力、書く力、計算する力はもちろん、良好な人間関係を築く力、自分の思いや考えをしっかりと表現する力、困難なことや課題に粘り強く向き合う気力と体力、そして安全に行動することの大切さを理解したり実践したりする力を子どもたち一人一人が確実に身に付けることができるよう、日々の授業はもとより学校生活全体を通して取り組んでいるところです。

暖冬とはいえ、あとしばらくは寒さに備えなくてはなりません。積雪や路面の凍結も心配されます。子どもたちが安全に登下校し、寒さや病気に負けず、心とからだをととのえて、やがて訪れる春を元気に迎えることができますよう今後ともご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



校長 藤原 佳弘
教職員 一同